商経アドバイス令和８年１月13日（火）第6503号

# 農水省が 11 月末現在の流通動向データ公表
# 民間在庫が 70 万㌧増加
# 未契約の浮動玉３倍増に

農水省は昨年末、7 年産米など米穀の流通動向（集荷・販売・民間在庫）の集計データを発表した。11 月末現在の状況を調べたもので、集荷数量が前年同月より 27 万㌧以上増えている一方で、販売数量は８万㌧近く減少していることが分かった。民間在庫は前年より40万㌧以上少なかった６年同月とは対照的に、昨年 11 月末では 70 万㌧も増加していることが分かった。

調査では、全農・経済連・県農協・出荷組合・集荷業者（いずれも年間 5000 ㌧以上規模）を対象に、水稲うるちの集荷・契約・販売数量を 11 月末現在で報告を受けて集計。出回りからの累計で集約している。

7 年産の集荷数量は全国の合計で 218 万 4000 ㌧となり、前年比で 27 万 3000 ㌧（14%）増えている（下表①参照）。概算金の大幅引き上げが効を奏した形で、集荷数量はほぼ 4 年産並みの水準。また昨年 12 月 12 日発表の収穫量調査における増加量（前年比 68 万㌧増）ほどではないものの、生産量の増加が集荷数量にも反映された形となっている。

**① 集荷業者のコメの産地別集荷・契約・販売状況推移（万玄米 t）**

| 年産 | 集荷 | 契約 | 販売 |
|---|---|---|---|
| 平成 26 | 283.6 | 155.8 | 49.8 |
| 27 | 255.5 | 170.8 | 46.1 |
| 28 | 255.8 | 173.6 | 46.4 |
| 29 | 235.4 | 179.9 | 47.2 |
| 30 | 226.5 | 185.8 | 46.4 |
| 令和元 | 232.2 | 184.8 | 44.3 |
| 2 | 244.6 | 184.1 | 38.8 |
| 3 | 241.8 | 169.9 | 40.6 |
| 4 | 221.6 | 173.6 | 38.4 |
| 5 | 209.3 | 181.1 | 38.2 |
| 6 | 191.1 | 177.7 | 45 |
| 7 | 218.4 | 179.9 | 37.5 |
| 前年差 | +27.3 | ＋ 2.2 | ▲ 7.5 |
| 前年比 | +14% | ＋ 1% | ▲ 17% |

(注)いずれの年も、出回りから生産年 11 月末までの累計。

集荷数量のうちコメ卸などと契約が済んでいる数量は全国合計で 179 万 9000 ㌧となっており、前年を 2 万 2000 ㌧（1%）上回る程度。集荷数量に対する契約進度は 82%となっており、逼迫(ひっぱく)感があった前年同月よりも 11 ㌽低下している。7 年産は先安観が強いため、契約ペースが抑えられているものとみられる。

11 月末時点の契約残数（未契約数量）は 38 万 5000 ㌧で、前年同月を 25 万 1000 ㌧（187%）上回り、3 倍近くに膨らんでいる。集荷数量の増加に加え、1 年古米（6 年産）在庫の増加や、放出備蓄米との競合、高米価による末端需要の減退などが影響しているとみられる。

契約のあとで卸などに引き取られている販売数量は 37 万 5000 ㌧と集計された。前年同月との比較で 7 万 5000 ㌧（17%）少ない。契約数量のうち、まだ引き取られていない数量（＝引き取り残数）は 142 万 4000 ㌧と算出できる。これは前年同月比で 9 万 7000 ㌧（7%）の増加。引き取りペースも前年より遅い状況がうかがえる。

一方、民間在庫は出荷段階（全農・全集連など）と販売段階（卸など）の合計で 329 万㌧となっており、前年同月よりも 70 万㌧（27%）増加している（表②参照）。

**② 出荷・販売段階別の民間在庫量（万 t）**

| | 6 年<br>11 月末 | 7 年<br>11 月末 |
|---|---|---|
| 出荷段階 | 200 | 247 |
| 対前年差 | ▲ 49 | +47 |
| 販売段階 | 59 | 82 |
| 対前年差 | +5 | +22 |
| 合計 | 259 | 329 |
| 対前年差 | ▲ 44 | +70 |

(注)①出荷段階は玄米仕入量 500t 以上の集荷業者など
②販売段階は玄米仕入量 4,000t 以上の卸など
③7 年 10 月末は売り渡した備蓄米 2,000t も含む。

備蓄米の放出量（約 59 万㌧）と販売減少量（約 8 万㌧）がそのまま在庫量の膨張となって現れている。

流通の階別にみると、出荷段階の在庫が 247 万㌧で、前年を 47 万㌧（24%）上回る規模。集荷量と引き取り残数、販売減少量の増加などが影響しているとみられる。

一方、販売段階の在庫は 82 万㌧となり、前年比で 22 万㌧（39%）上回った。7 年産在庫が 57 万㌧（前年比 13 万㌧＝30%増）、6 年産在庫が 18 万㌧（9 万㌧＝100%増）で、古米が倍増。末端販売の鈍化傾向が在庫の状況にも表れている。

末端販売の鈍化や流通在庫の増加が未契約数量の急増につながり、いわば浮動玉があふれた状況にある。需給バランスが崩れた危うい事態に陥りつつある。